

ひるまだより

医療法人社団トモニアム
ひるま矯正歯科
Hiruma Orthodontic Office

発行:ひるま矯正歯科
〒190-0012 立川市曙町2-9-1 菊屋ビルディング2F
TEL:042-526-3376/FAX:042-528-1102
URL:http://www.hiruma.or.jp/

お知らせ

- 9月26日(水)～28日(金)
まで学会出席につき休診させていただきます。
- 9月30日は中秋の名月。お月見を楽しみましょう!



特集

患者さんインタビュー⑮

「前医院との連携で転院のデメリットはゼロ」

動的治療期間中に転院されたKさんにお話を伺いました。インタビューの内容をダイジェスト版でお届けします。全文はホームページでご覧ください。

◆矯正治療を始めたきっかけを教えてください。

小さいころから歯並びが悪く、歯科検診でもかみ合わせが良くないと言われていました。高校3年生のときに、母のすすめで矯正歯科に初めて足を運びました。母も生まれつき歯並びが悪く、僕に遺伝したことを気にかけていたようです。当時は実家のある富山県に住んでいたため、県内の矯正歯科を受診。先生から「矯正で歯並びをよくすることは、歯の健康だけでなく体の健康にもつながります」とすすめられ、治療を始めました。

◆なぜひるま矯正歯科に通い始めたのですか。

大学受験をして、東京の大学に進学することに。富山で世話になった先生が、大学時代の後輩が東京にいるからというので紹介してくれました。ひるま矯正歯科の晝間先生でした。

◆ひるま矯正歯科の印象はどうでしたか。

まず、施設全体がすぐくきれいだと思いました。以前の先生からの紹介でしたし、医院や先生の雰囲気もとてもよかったので、転院による不安は全くありませんでした。

◆治療はどのように行いましたか。

ひるま矯正歯科で治療を始めたのは前の医院で矯正治療を開始してから1年後くらいです。転院はしましたが、前の医院と治療のコンセプトも方針も変わらなかったし、診察の資料もすべて引き継いでもらえたので、これまでの治療の続きをひるま矯正歯科で

やってもらおうという感じでした。月に1度のペースで定期的に通い、診てもらいました。

僕の場合、以前の先生の対応にも納得していましたし、その先生が紹介してくださった晝間先生の対応にもすごく満足しているもので、転院によるデメリットはゼロ。本当に幸せです(笑)。

◆ひるま矯正歯科への要望はありますか。

要望というよりお願いですが(笑)、晝間先生と治療以外でお会いしてお話ししてみたいです。治療の中で僕の不明な点すべてにこたえていただきとても感謝しています。晝間先生を尊敬しているの、歯のことでだけでなく人生観や仕事観などいろいろ教えていただきたいと願っています！

矯正治療は、費用や時間、体力的にも負担は大きいですが、「治療したい」と思っていた自分をチャンスと捉えて、始めてみるのもいいと思います。



Kさんの症状について解説します

●初診時の診断:「上顎前突、叢生」

Kさんは、富山県の寺田矯正歯科医院で治療を開始され、東京の大学入学と同時に当院に転医されました。当院では新潟大学矯正歯科のスタンダードエッジワイズテクニックを用いて治療を行っており、同じ医局出身の大先輩からの転医であったため特に大きな問題もなく治療を継続できた症例です。

寺田矯正歯科での治療方針は、上下歯列の前後的な位置関係を改善して叢生を改善するために上顎左右4番を抜歯、臼歯関係はAngle class II 仕上げを目標とすること。当院への転医は動的治療開始から約12ヵ月後でした。治療方針や装置などに変更の必要はないため、そのまま治療を継続しました。治療結果は、口唇の突出感および口唇閉鎖時の緊張感が減少し、叢生、上下顎前歯の唇側傾斜は改善され、上下顎の全ての歯が効率よく接触する安定した咬合を得る事ができました。同じ矯正歯科医院に通い続ける事が難しい場合でもきちんとした診断により治療が開始されていて、適切な紹介先の選択などが行われれば治療の質を落とさず、患者さんにも不安を与えず治療を終える事が出来ます。

初診時



当院への転医時



動的治療開始から約12ヵ月後、犬歯の遠心移動終了時。経過の治療方針は、第二大臼歯のコントロールと前歯の後退による空隙の閉鎖、緊密な咬合の獲得。

動的治療終了時



右上2番は術前の咬耗により切縁が斜めになっている。寺田矯正歯科での治療方針のとおり、臼歯関係はAngle class IIで仕上げる事ができた。また、上下顎前歯が後退した事でEラインの内側に口唇が入り良好な側貌を得た。